

**自立的電気供給および検査機能を兼ね備えた
水素燃料電池バスを用いた防災・感染症対策システムの実証実験をスタート**
～感染症対策システムを備えた「災害医療用モビリティ」の社会実装を目指して～

株式会社 LSI メディエンスは、国立大学法人筑波大学が推進する内閣府戦略的イノベーション創出プログラム（SIP）「国家レジリエンス（防災・減災）の強化」の採択事業「水素燃料電池バスを用いた防災・感染症対策システムの開発」（以下、「本事業」）において、公益財団法人筑波メディカルセンターとともに共同研究機関として参画しております。この度、本事業において、大型水素燃料電池大型バスの車両開発を完了し、2021年10月より同車両を用いた感染症検査機能の実証実験をスタートしました。今後は、順次、水素燃料電池マイクロバスの車両開発も進め、大型バスとマイクロバスという特長の異なる2つのモビリティを活用した感染症対策システムの開発を進めてまいります。

本事業の中で株式会社 LSI メディエンスは、臨床検査業務を長年培って得た知見を活かし、複数の医療機関・保健所を接続する検査システムと迅速な検査結果報告を実現するオンライン受付システムのオペレーション、バス内での検査業務および検査結果の妥当性評価を担当します。

新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、感染症に対する社会システムの脆弱性が顕在化し、予測できない自然災害発生時の感染抑制マネジメントが喫緊の課題となっています。そのなかでも迅速な検査体制の構築は被災地の二次感染リスクを低減させ、より安全・安心な避難環境の実現のために不可欠となっています。

これらを背景に、本事業では、短時間で多数の検査が可能な大型バスと機動性に優れたマイクロバスの2台の水素燃料電池バス車両を用いて、災害時にも速やかに感染症検査が可能な「災害医療用モビリティ」の開発と災害時の状況を想定した感染症検査フローを確立します。さらに医療用機器の稼働に影響を与えない電源品質の確保や、それらを実現するための適切な検査機器の選定も行います。制約空間下で効率的かつミス誘発しにくい検査導線やレイアウト設計を行い、各種検証試験を重ね、感染症対策システムの構築を目指します。

* 本事業の一部は、内閣府総合科学技術・イノベーション会議の戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）「国家レジリエンス（防災・減災）の強化」（管理法人：防災科研）によって実施されています。

<スケジュール>

2021年10月～12月	<p>大型バス試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車両性能評価・車内における検査検証試験 ・施設電源喪失時の想定試験（医療施設・検査センター） ・保健所での検査想定試験
2022年1月～3月	<p>マイクロバス試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車両性能評価・車内における検査検証試験 ・施設電源喪失時の想定試験（医療施設・検査センター） ・保健所での検査想定試験
2022年2月～3月	<p>大型バス・マイクロバス併用実証実験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実証実験（避難所・福祉避難所における実地実証） ・学内外大規模イベントでの検査実証実験 ・電力供給の活用によるモビリティ稼働範囲の拡大検証実験 ・緊急災害発生時における体制検証

<車両外観・内装図>



-検体採取から結果報告までその場で実現可能-



検体受付から約40分で検査結果を通知
バス1台で1日2,000検体（プール検査）以上の検査が可能

以上

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社LSIメディエンス 総務・法務・知財部 広報担当

TEL：03-6896-8926

E-Mail：NPA-LSIM-PR@nm.medience.co.jp